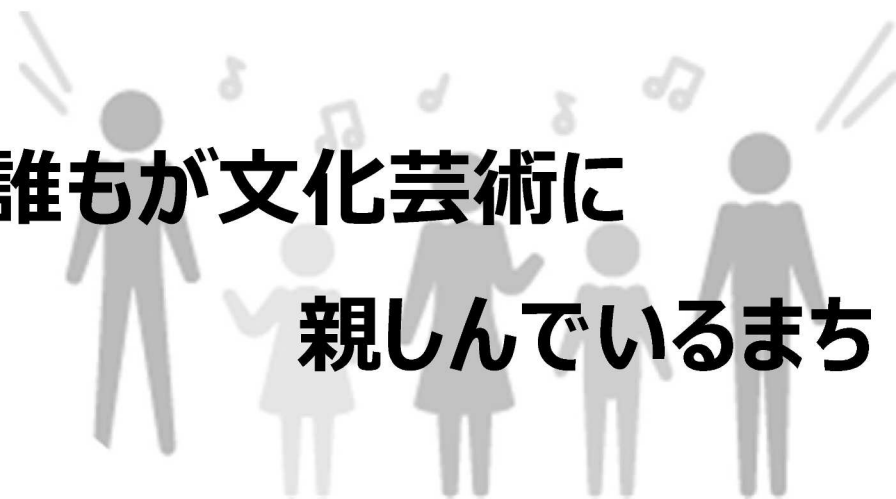




レガシー⑤

誰もが文化芸術に
親しんでいるまち





01 | アートコミュニティ形成プロジェクト「こと！こと？かわさき」

■事業概要

東京藝術大学と連携し、アート（文化芸術資源）を介してコミュニティを育み、「対話のある社会」、「多様性が尊重される社会」、「孤立しない社会」の実現に向けた取組を推進。アートコミュニケータ「ことラー（※）」が活動に必要な基礎的な考え方を講座などで共有した後、市内の文化施設をはじめ福祉施設等とも連携して、実践的なプログラムや自主的に企画した活動を展開し、市内の魅力ある資源を多角的に捉え、アート（文化芸術資源）を介した対話の場作りや、年齢や障害の有無にかかわらず、社会のあらゆる人が心地よく安心してコミュニケーションできる場作りを目指す。

（※）アートを介してコミュニケーション(こと)を起こす活動をする人々（R7:70名）



■令和7年度の取組成果

社会のあらゆる人が心地よく安心してコミュニケーションできる場作りに向け、市内文化施設をはじめ福祉施設等とも連携し、実践的なプログラムや自主的に企画した活動を展開した。

- ①各種講座で、参加者の状況により、「文字起こしアプリ」を使った、字幕表示による情報補償を実施
- ②福祉施設等と連携した実践的な講座の実施（6グループに分かれ5施設で実施）
- ③情報補償として字幕や手話を入れたフォーラムや公開講座等の開催
（12月21日こと！こと？フォーラム及び1月25日オープンレクチャーにて実施）
- ④年齢や障害の有無にかかわらず参加できる取組を自主的に企画
（「Colors展」と連携した対話型鑑賞会4回、身体を使ってリズムを刻む「ことリム」2回実施）



文字起こし・手話を入れたフォーラム



ケア実践講座(グループ活動)
地域包括支援センター主催のカフェで活動



Colors展での対話型鑑賞の様子



Colors展での「ことリム」実施の様子



02 | パラアート推進事業

①**パラアートミーティング**：障害のある人もない人も共に文化芸術活動に取り組む事のできる環境づくりを進めるため、パラアートに取り組んでいる方や関心のある方同士の情報交換や交流を促進する。

成果：研修開催により、パラアート関係者が抱える課題を学ぶとともに様々な事例の共有や関係者同士の交流を促進した（見込）。（①令和8年3月11日 ②令和8年3月17日）



パラアートミーティングの様子(R6)

②**Colorsかわさき展**：障害の有無にかかわらず、作品の魅力を伝える絵画展

成果：AIの技術を活用するなど、障害のある人もない人も共に文化芸術活動に取り組むことのできる環境づくりを進めることができた。
（出展数約210点、入場者数1,446名）

③**パラアート推進公募事業**：障害者等を対象に文化事業を行う団体を公募、選考のうえ、事業を委託して実施した。

成果：初事業として2事業、継続事業として3事業を委託し、市民に音楽等をとおした体験の機会を提供できた。

03 | インクルーシブ音楽プロジェクト

・音楽やダンスを通じて多様性や包摂、共生社会など「かわさきパラムーブメント」の世界観を楽しみながら感じられる、インクルーシブな各種取組を実施する。

時期：令和7年度中

対象：市民、学校・施設、音楽・ダンス関係者など

成果：ワークショップ(28回)、音楽ライブ(1回)、ダンス公演(1回)を開催し、障害の有無に関わらず約2,500人が参加し、参加者同士の交流や、ワークショップ実施会場による独自の取組も生まれるなど、共生社会の実現に向けた象徴的な取組となった。



インクルーシブ・ダンス公演「Sunrise and Sunset」



「ミューザの日」での音楽ワークショップの様子



04 | 東京交響楽団市内巡回公演

・音楽に接する機会の少ない方、コンサートホールに来場することが難しい方に、良質な音楽を届ける。

時期：① 7月30日 ② 1月7日 ③ 1月8日

④ 1月26日 ⑤ 3月6日 ⑥ 3月9日

対象：障害者施設、児童養護施設、病院、特養老人ホーム等

成果：対象施設の要望や特性に応じて、参加者が歌ったりリズムをとったりできる曲を演奏することにより、多くの市民に身近に文化芸術に触れる機会を提供する事ができた。

特養老人ホームでの公演の様子

05 | しあわせを呼ぶコンサートの開催 (宮前区)

・音楽を通じて障害のある方もない方も、出演者と観客が一体になってステージを作り上げ、お互いに理解を深め合うことを目的として実施する。

時期：令和7年9月10日 (水)

対象：どなたでも

成果：宮前障害者施設・作業所連絡会の8施設51名の皆さまが舞台上で第九を原語で合唱し、観客との交流と相互理解を深めた。(参加者約700名)

合唱風景

06 | はぴ☆こん～誰もが幸せになるコンサート～の開催 (幸区)

・お互いを理解・尊重し、多様性を受け入れる「心のバリアフリー」を進めることを目的に、年齢や障害の有無に関わらず、誰もが気軽に様々な音楽を楽しめる観覧無料のコンサートを開催する。

時期：令和7年11月16日 (日)

対象：どなたでも

成果：田島支援学校や川崎市文化財団とも連携を図り、多様な主体が様々なかたちで関わり、多様性を体現する音楽イベントとなった。(参加者約200名)

出演者による演奏の様子

■アドバイザーの活用：

- ① 小川 智紀氏 (神奈川県障害者芸術文化活動支援センター理事長)
- ② 萩原 利昌氏 (NPO法人川崎市障害福祉施設事業協会理事長)

【アドバイザーの主な意見や提案】

- ・開催の理念(心のバリアフリー、共生社会、多様性理解など)が、出演者・関係者に十分共有されておらず、理念と実際のプログラム内容の接続が弱いことから、理念への理解を深めた上で企画に取り組むことで、達成感・意義・継続性が高まるだろう。
- ・イベント雰囲気に変化をもたせるため、音大生や専門学生など若手人材に、企画運営を主体的に担わせる機会を設けてみてはどうか。
- ・障害の有無を超えた出演者同士のコラボ・交流の仕組みを作ることで、一過性でない関係構築や継続的な文化活動の可能性が広がるだろう。

⇒意見・提案等を踏まえた取組の検討・実施